

西宮 西宮えびす



えびす NISHINOMIYA EBISU 平成19年夏号 西宮えびす 平成19年夏号(通巻第27号) 平成19年6月1日発行 発行/西宮神社 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17 電話0798-33-0321 FAX0798-33-5355 編集/総務課庶務 印刷/小西印刷所

平成19年 夏号

諸国探訪 西宮講社松本事務所

大鳥居復興/西宮まつり

おこしや祭など六月〜十二月行事

昇奉輿神祭御渡 募集

「お祭りを通じて地域に親しみませんか」当社で最も重要な祭典「西宮まつり」に合せて二十三日の陸渡御で練りだす大神輿(約1トン)の担ぎ手を募集いたしております。一般の方でも祭典にご奉仕頂ける数少ないチャンスですので、この機会にぜひご参加ください。
【奉仕日時】平成十九年九月二十三日(祝)終日
【応募資格】高校生以上の男性



大会 子供相撲 参加者募集

当社では昨年より、沖恵美酒神社祭(七月十日)に近い日曜日(本年は七月八日)を選んで、子供相撲大会を奉納。お子様の健やかな成長を祈念申し上げます。三歳(幼稚園・保育園相当)から小学六年生のお子様まで、男女問わず募集いたしておりますので、ご家族そろっての来社をお待ちいたしております。
【競技方法】年齢別に分かれてのトーナメント戦
【競技日時】平成十九年七月八日(日)
※競技開始時間は部門ごとに異なります。
【参加資格】幼稚園・保育園児から小学六年生までの男女
【応募方法】社務所受付にて応募用紙を用意しています。当日の予約状況によっては飛び入り参加も受け付めます。



◎各募集へのお問い合わせは西宮神社社務所(0798-33-0321)にお寄せ下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

年末年始臨時奉仕者募集

正月・十日えびすにかけて、例年百五十万人以上の参拝者が当社にお参りになります。これに合せ毎年百人ほどの助勤の方を募集いたしております。笑顔が福々しい、やる気のある女性の応募をお待ちしております。
【奉仕内容】迎春準備作業、正月十日えびす期間の神札の授与、参拝者対応など
【奉仕期間】平成十九年十二月二十六日〜平成二十年一月十五日(奉仕日時は応相談)
【応募資格】十八〜二十三歳までの未婚の女性(※高校生は迎春準備作業のみ)
【応募期間】平成十九年十月一日〜十日頃まで
【応募方法】応募用紙は当社社務所にてお渡ししますので、奉仕希望の方は直接受付までお越し下さい。



Q&A

当コーナーでは読者の皆様のご質問・ご要望をお待ちしております。あの祭はどんな意味があるの?「社報でこの事を取り上げては?」など、どんなご用件でも結構です。限られたスペースではございますが、次より誌面を通じて質問にお答えし、読者と神社との交流の場になればと考えております。
■ご質問は郵便にて西宮神社総務課庶務までお願い致します。
(〒662-0974 兵庫県西宮市社家町一十七)
※誌面で紹介する際、匿名をご希望の方はその旨をご記入下さい。

編集室から

今号より誌面の構成を一部変更し、ページ数も増加しました。それにともない「INFORMATION」のコーナーを復活。形式にこだわらず、読者の方へ能動的に情報を提供できる「コーナー作りを目指します。また今回新たに読者のコーナー「えびすQ&A」を立ち上げました。限られたスペースですべてのご質問を掲載することは叶いせんが、できる限り多くのご意見を掲載いたしたく考えております。



西宮まつりの主な神事 船渡御

長野県の中央松本市に在り、観光客で賑わう浅間温泉の東山裾に鎮座しており、明治二十四年に撰津国西宮神社より勸請し西宮講社松本事務所として始まりました。

社殿は大正十四年に今とは別の松本市深志三丁目の場所に建てられていましたが昭和二十七年一月に崇敬者の協力を得て本殿を今の浅間温泉の地に建立し二十八年に幣殿、拝殿社務所を増築して今日に至っております。

西宮神社の御神影札は「オイベッサマ」と呼び親しまれており、商家は勿論、農家や一般家庭にまで祀られています。

西宮大神宮「オイベッサマ」、大國主大神「ダイコクサマ」、五穀成就「タノカミサマ」の御神影札は各地区に頒布をしてくれる方が



有り、九月から十月にかけて届けます。昔は車も無く泊り掛けで届けていた様ですが、今は車で短期間で頒布者に届ける事ができる様になりました。頒布者は十二月のエビス

内安全、商売繁昌の祈願を行ない参拝者全員に粕汁、御神酒を振舞っています。



十二月十九日二十日のエビス講には各地区より参拝に訪れます。神社を浅間温泉に移してからのエビス講には多くの参拝者が有り、旅館に協力して頂いて安い料金で宿泊をする事ができる為希望される参拝者は温泉に泊りして帰られます。

講までに届くように崇敬者宅に頒布して回ります。祭りは「月初旬」「正確には第二土曜日」に初恵比寿祭を行ない、参拝者人々の家

現在は御神影札の頒布数は代替りで神札を受けない家が多くなり減少傾向にあります。昔からの伝統を後世に伝えてゆかなくてはと考えているところです。

諸国探訪

九

十二年ぶりに復興「赤門前大鳥居」



震災で崩れた旧大鳥居

「えべつさんに恩がえしがしたい。」そう語った藤原あつ恵さんが当社を訪問されたのは昨年の八月頃。先だつて医師より余命一年の宣告を受けてからのご発願でいらつしやいました。

藤原さんは当社が鎮座する西宮市の隣り、芦屋市にお住まいの方で同地にて不動産業を営んでいらつしやいましたが、阪神大震災の折に多くの物件を失い大変なご苦労をされたそうです。

例祭の斎行された九月頃までは車椅子に乗りながらも当社に参拝されておられました。その後容態は悪化。苦しい闘病生活の中にありながらもたびたび鳥居の進み具合を気にしていました。

十一月十三日、鳥居建立前の清祓を行い工事の無事を祈願。そして十二月十四日赤門前の大鳥居が復興いたしました。大きさは震災で倒壊した旧鳥居と同じサイズ。このたびは鳥居の柱にピアノ線を通し、揺れにも強い構造となりました。

しかし残念ながら藤原さんは十二月七日、大鳥居

の完成を見ることなくお亡くなりになりました。完成から翌々日の十六日、関係者・マスコミの見守る中清祓を斎行。この時ご遺族の方は喪中に当たる為参列はされませんでしたので、翌十九年の二月十二日ご遺族の参列のもと、改めて潜り初めを奉仕。併せて鳥居前にてご親族の集合



ありし日の藤原あつ恵さん(中央)



清祓の儀

写真を撮影しました。続いて西宮神社会館で行われた直会の席にて、神社本庁の池田厚子総裁から贈られた感謝状と記念の写真を、宮司からご遺族の藤原庸祐さんにお渡しし、滞りなく祭典を執り納めました。



ご遺族に手渡される感謝状

残念でなりませんが、きっと遠い空から大鳥居の竣工をお喜びになっているのではないのでしょうか。お亡くなりになった藤原さんのご冥福をお祈りいたします。

西宮まつり

氏子四地区にお旅所を設けての御旅所祭も今回で二回目。本年は安井地区にて斎行いたします。

奉納演芸大会



バイオリニスト伊藤佳奈子さんのバイオリン演奏奉納

9月21日

午後5時

宵宮祭

西宮神社本殿

西宮まつりの開催を奉告し、お祭り三日間の安全無事を祈願します。

午後6時

奉納演芸会

境内特設舞台

地元の方々やゲストを招いて各種演芸を奉納します。



蒲団みこし(中央が岩崎さん)

蒲団みこし復興

昨年は心配されていた台風もそれ、好天のもとに西宮まつりを無事と納めることが出来ました。用海地区神輿渡御・日本盛御旅所祭斎行等、新規の試みがいくつかございましたが、その中でも逆台形の不思議な形をした蒲団みこしに目を奪われた方も大勢いらっしゃったのではないのでしょうか。

蒲団みこしの復活は、かねてより西宮まつり実行委員会でも調整を行っていましたが、特に蒲団神輿愛好会の岩崎正夫さんは、みこしの新調・奉昇者の手配まで、全面的にご尽力を頂きました。

今号では岩崎さんに蒲団みこしについてお話をいただきました。

蒲団太鼓台(蒲団御輿)

蒲団太鼓台は、古くから五穀豊穡を祝い、又願い、御輿やだんじりと同じ様に大勢の若者によつて、町内・村内を担ぎ渡つたと聞いています。蒲団太鼓は、氏子の村に二台有り、お祭りの時に氏神たる神社の御輿に、お宮さんから神様にお入り頂き、村中においてに成られた時に、赤い五枚の座布団にお座り頂いて、村内を見ただく物である、と小さい頃より聞かされてきました。「ヨーサージャー」のかけ声に「ヨイヤサー」のあいの手でリズムを取り、足並みそろえて優雅にねり歩きます。

「ヨーサージャー」とは、豊年大漁・豊年万作を願う口上で、「ヨイヤサー」とは、末永く続け、と願うあいの手。これはいくつもある説の一つにすぎません。

蒲団太鼓台は、大きい物は1トン〜2トン有り、大人が70人〜100人以上で担ぐ物も有ります。「優雅なねり歩きを観客に魅せる」ことができ、小さな子供達がこの姿を見て、郷土文化に興味を持つて、未来の担ぎ手として育つてほしいと思います。

西宮神社は、20年前前を最後に出なくなりました。それが、昨年の西宮祭りを期に復興されました。担ぎ手は中学・高校生を中心に20〜30人くらいで担ぎました。代々、伝統・文化を受け継いでいく事、これは地域の方々のご支援の上に成り立ち事と思います。これから、西宮が誇る伝統・文化・力の象徴である蒲団太鼓台が地域の財産として末長く守り、育てられていくことを心より期待しています。

9月22日



例祭

午前10時

例祭

西宮神社本殿

当社で最も重要な祭典で、全国から崇敬者の参拝があります。

午後3時

稚児行列

西宮中央商店街

かわいらしいお稚児さんが宝船を曳きながら行進します。

午後5時30分

こども樽みこし

西宮中央商店街

子供会のみこし・ウラスバンド・男女みこしが、にぎにぎしく商店街を練り歩きます。



子供樽みこし



稚児行列

9月23日

午前10時

発輿祭

西宮神社本殿

神輿に神様をお遷しし、神輿渡御の始まりを奉告します。

午前11時30分

陸渡御

安井地区

神輿を中心に、時代装束を身にまとった神職・氏子が御旅所を目指して練り歩きます。

午後0時10分

御旅所祭

安井地区

海上安全を祈願するとともに、童女神楽を奉奏しご神慮をお慰めします。

陸渡御

神輿を載せた御座船を中心に船団を組み、西宮浜を周航します。

午後2時20分

船渡御

西宮浜沖
神輿を載せた御座船を中心に船団を組み、西宮浜を周航します。

午後2時40分

かざまつり

御前浜沖
八乙女が船の四方から切麻を撒いて海のお祓いを行います。

午後1時10分

産宮船出航

新西宮
ヨットハーバー
和神社・三石神社参拝

午後2時25分

還御祭

和神社・三石各社
当社ゆかりの両社に参拝します。

午後4時50分

還御祭

西宮神社本殿
神輿を本殿にお戻しし、みこし渡御の終了を奉告します。

日本盛本社で行われたお旅所祭



用海地区より選ばれた8人の童女

えびす瓦版

時の西宮神社用日誌を
ひもとく「えびす瓦版」
今号は
文化六年(一八〇九)です。



神主 吉井上総介
前神主 吉井陸奥守
社家 東向齋宮

祝部 大森教馬 祝部 廣瀬石京 神子 紅野治良太夫
大森修理 堀江左門 瓶子清太夫
大森主水 橋本石膳 大石喜十郎
田村織衛 社役人 辻兵治

御旅所再建、神明宮正遷宮を齋行

去る享和三年(一八〇三)六月付にて、当所本町にある御旅所内の祈禱所(梁行間五尺桁行二間瓦葺)の再建願及び祈禱所内の神明宮を手狭で差支えがあるため後方へ三尺五寸瓦葺にて小社新建願、この両願書を大坂奉行所に絵図を添え願上のごところお聞き届けになった。

このときからの作事が成就したため、六月十三日に正遷宮を執り行う。早朝より神主以下出勤し、戌の刻(午後八時)に御本社御飯殿より神輿が出御。本町筋を御神幸する。

続いて十四日より十七日までの間五穀成就氏子安全の祈禱を執行する。

猶修覆勘定によると濱方で三十五匁、町方で百匁程が不足している。濱方世話人から報告があり、とりあえず濱方分を神社から出銀することとなった。

上納などは次の通り
廣田村 南籾一斤

産所と社内芝居の運上騒動

産所で行っている芝居からは町方へ運上がつているが、神社で行われる芝居には運上がない。これでは差支えがあるので社内芝居を差し止めて下さるようにと、町方会所から申してきた。前例もないことで捨て置いていると今度は産所から芝居を仕切っている座古屋新太郎方へ、産所の運上を「手伝」えば差支えの筋は申さないと云って来た。

早速町方年寄の瓶子屋又左衛門へ伺い尋ねると、何も知らない様子であった。これは運上に困った産所の者共が下役人に願い、下役人の一存で神社へ使いを寄越したものであった。その後は返事も無い。

先祖の神霊を祭る願い

小林村豊嶋屋藤兵衛という者が神主宅へ参り申すには、先祖へ肴を進めたいが、仏前へは供え難いので神霊を別に祭っても良いかの由であった。神主が特に差支えはないと答えると、宜しき靈号をいただきたいと頼むので先祖在世の名前等を尋ね、當家開基何某神霊と認め遣わした。

神主播州へ

病いがちである神主上総介は、四月五日に播州北在家村の医師松尾一学方へ向かう。

江戸にて大火

江戸にある西宮支配所からの年札状によると、正月元日戌の刻に佐内町(江戸橋東南方、現日本橋一丁目付近)より出火し、西風強くたちまち両国まで広がった。また飛び火により本所辺が類焼とのこと。西宮太々講中九軒が類焼し早速見舞状を出す。

今年の太々神楽

三月十八日
願主當所酒家年行司大田屋権兵衛、世話人笠屋庄九郎、網中五郎兵衛
神楽金 拾両、御初尾 三両
酒屋四十四軒六軒間屋中へ御祓御鏡神等遣わす
四月十六日
京講中 講元大坂屋伊右衛門、八文字屋利兵衛 當所世話人嶋屋儀兵衛 座古屋利兵衛
神楽料 拾両、大御祓 三十五軒分、小御祓 百八十枚、御影 四十三枚
四月二十日
江戸より大田屋権右衛門罷り登る。十二日に江戸魚問屋當所世話人松井和五郎、三砂武助、三砂小右衛門、木津屋勘助より講金拾両、御影料百疋

近來にない大雷

六月二十日八つ過(午後二時頃)より大夕立となり、西宮から川内の間で五十〜六十も雷が落ちた。
上大市村や越水村では各々一軒が焼失。近來では覚えざる大雷であった。

若ゑひすいさみ講

そもそも西宮恵美酒太神と申奉るは、伊弉諾伊弉冉の御子蛭児尊にておわします。土の御徳を備え御心柔和に、おすがたも温和におわしまし、常に怒れる色なく、笑いを含み給いて御かたち麗しければ、えみす太神とも申すとかや。福祿寿を保ち給う。

農工商働すべて万民の祖神とたたせ給う市の神に祭り商人の守護神と成り給う。御徳の厚き事は四海の内人皆よく知るところ也。宝の市を始め貴賤を集め給い、家内を賑やかにし給う。正直の心を以ち信ぜん輩は平生商い繁昌にして物事程よく整いて、日々に忙わしく商売繁く数の宝を手に入れば福祿ともに備わり、このに不足なくいさみありて、我家業の忙しきを楽しみたる事を知れば、おのづから寿命も永久に天年を保つ。

いのち永ければ福祿寿ともに、全く是すなわち御神の御心に叶う。常々こころに怒れる色なく顔色いっとても麗しく人愛も自然によし。思いの外の商いもできれば、是をその時のえびすと申し候。商い神と祝い奉る昔より年々に御繁昌の御宮なれば、諸国より太々神楽を奉る。然るに、程近き当大坂に講とはいまだ無し。このたび信心の人講の元祖として取り結び、万代不易の基を開き、若ゑひすいさみ講と名付け、年々集まり錢を以て太々神楽を齋行し、御神前において天下泰平 宝祚無窮 御武運長久 五穀成就 万民安楽を祈り奉り、家内安全無病延命 家業繁昌の旨一社中の銘々丹誠を抽じて御祈禱執行し奉らん。

此講成就する時は年毎に参詣の人々増す時は導きからの賑わいならんと云々
文化六巳九月大吉日

大坂にはいまだ西宮恵美酒太神様へ太々神楽を奉納する講がないので、ここに「若ゑひすいさみ講」と名付け、信心の人は講を結ぶように勧める趣意書。またこの年の「西宮太神宮御膳料寄進帳」が残されており、本御膳銀十二匁、半御膳六匁と定められ、右より更に長文の勧進文が記されている。

諸国からの参拜

三月二十三日 出羽国山形配下
四月 十二日
奥州会津配下鈴木丹司、佐藤右門受領願
九月 二十日 奥州仙台岩井郡配下受領願
九月 二十六日 奥州配下千木崎近江
(二木松領片平村)

平成十九年 六月から十一月の行事のご案内

もつと当社に親しんで頂けるよう、平成十九年六月から十一月の祭典・行事について、開始時間・詳細を合せ、二覧に致しました。皆様お誘い合せの上、ご来社下さい。なお十二月から五月までの祭典・行事は次号に掲載する予定です。
※社務・天候等により、一部予定が変更となる場合があります。

6月3日

◎フリーマーケット



日本フリーマーケット協会主催により、境内に約二百のブースが出店します。また出店者自身の製作したオリジナル作品を販売するアートブースも約五十出店します。
※午前九時から午後四時まで

6月14日

◎おこしや祭

えびす様のご鎮座伝承に由来する神事です。午後二時に本殿で祭典を斎行。続けてえびす様の神輿を留めた場所と伝わるおこしや跡地（西宮本町交差点近く）へ移動し、同跡地にてじりの無料授与（午後三時頃）を行います。また境内では親子でお楽しみいただける縁日・屋台が出店します。（午後四時～午後八時）

6月30日

◎大祓式

夏本番を迎えるに当たり心暗れやかに暮らせるように、心身を清める神事です。参列者には罪穢れを取り除く人形を配布し、続けて茅の輪くぐりの神事を執り行います。



◎子供相撲大会

お子様の健康を願って、沖恵美酒神社祭（七月十日）に近い日曜に行います。昨年より復興した行事で、前回は約百人のちびっこ力士が集い熱戦を繰り広げました。優勝者には表彰状・メダル・景品を贈呈いたします。（参加賞もあります。）
※参加者募集の広告は裏表紙に記載



5月26日

さつき展（～6月3日）

6月3日 9時

フリーマーケット

14日 14時

おこしや祭

17日 10時

弁天社祭

30日 15時

市杵島神社祭

16時

大祓式（西宮神社）

7月1日 10時

旬祭・氷餅献上・氷室の神事

8日 10時

子供相撲大会

10日 11時

沖恵美酒神社祭

14日 11時

住吉祭

20日 10時

夏祭・湯立神楽

18時30分

萬燈籠点灯式

31日 10時

夏祭・船だんじり

8月24日 11時

愛宕神社祭

9月10日 11時

浜戎神社祭

17日 10時

敬老の日祭

21日 11時

庭津火神社祭

17時

宵宮祭

21日（～23日）

西宮まつり

22日 10時

例祭

23日 7時

秋分の日遥拝式

10時

渡御祭

25日 18時

観月祭・観月の宴

10月6日 9時50分

宮水祭

12時

酒ぐらルネサンス（～7日）

8日 10時

体育の日祭

17日 10時

神宮遥拝式・神嘗祭奉祝祭

25日 10時

菊花展（11月23日まで）

11月3日 10時

明治祭

10日 10時

金刀比羅神社もみじ祭

20日 10時

誓文祭

22日 14時

造営記念祭

23日 10時

新嘗祭

※毎月1日・10日・20日 西宮神社旬祭
※毎月1日・15日 住吉神社月次祭
※毎月第三土曜日 骨董市

※赤字は境外末社住吉神社（西宮市西波止町4-4）の行事です
※行事の日時は社務・天候等により変更の場合があります。事前に西宮神社社務所（0798-33-0321）・住吉神社社務所（0798-32-0230）にお問い合わせ下さい。

7月20日 ◎萬燈籠

境内に置かれた約四三〇〇基もの石灯籠・カッポローソクに火が灯され、境内に幻想的な風景が浮かびます。また松林内において、芦屋の女人舞楽「原笙会」による舞楽が奉奏されます。



（午後六時三十分～午後九時）
西宮神社会館では、萬燈籠をさらにお楽しみ頂けるよう特別メニュー（お入場税込3,800円）を用意しております。ぜひご興味ください。
【時間】平成十九年七月二十日（金）午後七時～
【締切】平成十九年七月十日（火）先着六十名様まで
ご予約・お問い合わせは西宮神社内、西宮神社会館（TEL 0798823331）まで

7月31日 ◎船だんじり

西宮神社末社住吉神社の夏祭に合せて行う行事で昨年より復興いたしました。近隣の子供たち約八十人が「えべっさんわっしょい！住吉さんわっしょい！」の掛け声で元気に船だんじりを練りまわします。



9月21日～23日 ◎西宮まつり

詳細は西宮まつりのページに掲載

9月25日 ◎観月祭

毎年旧暦の八月十五日、中秋の名月に「原笙会」による舞楽が奉奏されます。また、西宮神社会館ではお月見にちなんだ会席料理が振る舞われます。
※神社会館の会席料理（有料）は要予約

10月6日～7日 ◎宮水祭・酒ぐらルネサンス



酒造りに適した水「宮水」に感謝する、酒どころ西宮らしいお祭りです。二日間には居酒屋コーナーや各酒造メーカーのブースが出店する他、きき酒大会・新酒番船パレード等のイベントが催されます。

10月25日～11月23日 ◎菊花展

境内に菊棚が設けられ、大小さまざまな菊が彩りを添えます。



EBISU TOPIC

えびすトピック

●ミュージカルEBISU 再演決定

「葦舟に乗せて流されたヒルコがどうしてエビスとなったのか?」どうして鯛を持つて笑っているのか?「えびす信仰をめぐる謎をテーマに作られた『ミュージカルEBISU』。今年の三月十八日の初演を無事に終えました。好評につき来たる七月二十九日(日)なるお文化ホールにて、再演が決定しました。

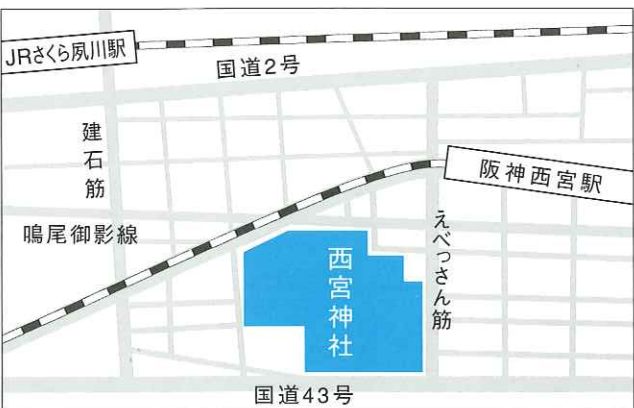
今回もプロ・アマを問わず選ばれたキャストにより演じられます。



●お参りが便利に! 「JRさくら夙川駅」竣工

今春より当社の北西、約四五〇メートルの神楽町に「JR」さくら夙川駅が竣工し、西宮神社へのアクセスが便利になりました。これまでのJR最寄り駅「西宮駅」よりも、五〇〇メートルほど神社に近く、歩いてお参り頂くことも可能です。(徒歩八分)

去る三月十八日、宮司奉仕により運行の安全を祈願する竣工奉告祭を斎行いたしました。



●時の川柳社 句碑を奉納

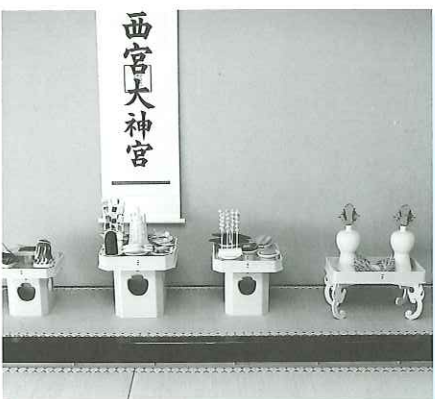
三月四日、末社沖恵美酒神社前にて、句碑の奉納式が斎行されました。今回奉納された句の作者は時の川柳社の会長で西宮市にお住まいの小松原爽介さん。同会副会長の和田恭子さん企画のもと、末社沖恵美酒神社の参道脇に建立されました。当日は本殿での祭典に併せ、句碑の除幕式を執り行い、続けて小松原さんのお孫さんが花束を贈呈。どこおりなく式をとり納めました。



人間は
なせに
うつむく
空無限

●古儀に則り 「古式神饌を復興」

昨年、「神領下行米内譯器械取調記」を参考に、往古より神前に供えられたと伝わる古式神饌を復興致しました。この度復興した神饌は全部で四台。鮭の切身や鴨肉、伊勢海老に蒸し米など実に多種多様。本年より十二月二十日午前十時の誓文祭に御神前に供進致します。また、四月から境内末社祭の古式神饌も復興のはこびとなりました。対象のお社は松尾・梅宮・宇迦之御魂・六甲山・大国主西・市杵島・火産靈・庭津火・百大夫の九社。蒸米(円柱形に整えた蒸米)・神酒(かわらけに供えた酒)・和布(円柱形の大根に和布を貼り付ける)・魚旬の魚の四種を三方に載せ、お供えております。



●神明神社整備事業奉賛 のお願い

神明神社はえびすの宮総本社西宮神社の末社に当たり豊受比女神様と稲荷大神様を祀る、諸願成就・町内安全の神様として知られております。

このお社は戸田町にありました大阪奉行所の西宮勤番所内に鎮座しておりましたが、明治六年(西暦一八七三年)に当社境内に遷されました。その時稲荷大神様を合祀。現在では「お稲荷さん」として多くの崇敬を受けております。



平成七年の阪神淡路大震災の折、鳥居が倒れたり社殿が傾く等の被害があり、また重ねて近年は風雨による朱の剥落もはなはだしい状態でございます。

ここに神明神社を往時の姿に復し、ご神慮をお慰め申し上げたく、この度下記の通り整備事業を計画致しましたので格別なるご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

●整備事業の概要

- 一、事業内容
 - 境内末社神明神社社殿及び鳥居の修理、塗装
- 一、総工事費 参百萬円也
- 一、ご奉賛金 一口 壹萬円也
- 一、ご奉賛の申し込み方法
 - 直接西宮神社社務所へお申し込みください
- 一、締切日 平成十九年七月末日

●あなたも西宮通? 「関西学院大学で西宮検定」

読者の皆様は書店で「〇〇検定」等と題する、地域をテーマにした検定本を目にした事があるでしょうか?このような「検定」は各地で行われており、ちよとしたブームになっているようです。

●西宮中央商店街と 阪神梅田駅でえびす舞

毎年一月五日、当社ではえびす信仰を全国に広めた傀儡師の祖、百太夫神を祀る百太夫神社祭を斎行致します。祭典に併せて例年、阿波・徳島から「阿波木偶箱廻し」を復活する会「二行」がご神前に於いて人形廻しを奉納することになっていますが、今年は昼から西宮中央商店街の商店にて縁起物のえびす舞を上演。地元徳島で行なわれている門付けと同じえびす舞を行なっていた

いただきました。

続けて、阪神梅田駅東改札口に場所を移してえびす舞を上演。これは、阪神電鉄と西宮神社協力のもと、十日えびすキャンペーンの環として行われたイベントで、



こちらも今年が初の試みとなります。初めてえびす舞を見たという方も多く、えびす様が鯛を釣り上げると会場から「オオー!」と、歓声が沸きました。続けて、十日えびす期間限定で運行する「えびす号」のヘッドプレートの授与式が執り行われ、巫女から梅田駅長にヘッドプレートが授与されました。